

# アスモ・たんぽぽ新聞

アスモ新聞はアスモのホームページ <http://www.asumo-kaigo.jp/> からご覧になれます。  
上記のアドレスが【在宅介護センター・アスモ】で検索してください。

「人に喜ばれる仕事を!!」のアスモは、みなさまとの新たな出会いをお待ちしております。

平成24年8月発行

第83号



〒165-0026  
中野区新井1-26-4 オスカマンション2F

☎ 03-5318-4007

1992年バルセロナ五輪。優勝候補の一人イギリスのデレク・レドモンド選手はその前回のソウルオリンピックでは怪我のため出場を断念。それから父親と2人3脚で猛練習に励み、見事オリンピックの切符を手に入れます。

陸上男子400準決勝。レドモンド選手はレース序盤、突然、足の肉離れを起こしてうずくまってしまったのです。他の選手たちが次々にゴールし決着がついた後、救急隊が彼に近づこうとすると、彼は立ち上がり脚を引きずりながらケンケンでゴールを目指して走りだしました。そこに一人の男が係員の制止を振り切り、コースに侵入してきました。レドモンドに駆け寄ったのは彼の父だったのです。辛そうながわが子を見ていられたのか、大粒の涙を流すレドモンド。父親はレドモンドに競技を止めるよう勧めましたが、レドモンドは首を縦に振りませんでした。父親は「分かった。じゃあ一緒にゴールしよう。」と、痛みを耐えながら行こうとする息子の肩を支え、一緒にトラックを歩き始めます。65,000人の観客が、2人の姿を見て感動と激励のスタンディングオベーションをします。そして歓声の中、お父さんは、ゴールの少し手前で立ち止まり、息子一人だけをゴールに向かわせたのでした。



花堂浩一  
代表取締役  
閉幕しました。

7月27日に開幕したロンドン五輪も、2週間の日程があつたという間に終了し、8月13日に閉幕しました。

オリンピック

今回のロンドン五輪では、日本歴代最多となる38個のメダルを獲得し、日頃私たちになじみの薄い競技の素晴らしさを教えてくれました。

数々の名シーンを生み出してきたオリンピック。私が特に気に入っているシーンがあります。

今回の五輪でもレドモンド同様、スリングの浜口選手や吉田選手、ハンマー投げの室伏選手のように親子でオリンピックを競う親子も数多くいました。

しかし、会場にも行くことができません。日本でもわが子を声援する家族もいました。28年ぶりにバレーボール女子にメダルをもたらした日本のエース、アタッカー木村沙織選手の母親は、職場を離れることができずに日本にいました。地元で大会で大応援団が声援を送る中、試合終了間際に会場に駆けつけた木村選手の母親は応援団の観客に深々と頭を下げたのでした。「仕事が遅くなり試合はほとんど見ることはできませんでしたが、沙織は頑張ったと思います」とインタビューで答えていたのが印象的でした。オリンピックは選手の闘いでもありますが、わが子を晴れ舞台に送り出すために懸命に仕事と闘っている親の姿も本当に素晴らしいな...と感動しました。

昨日も女子サッカーなどでシジャパンの宮間選手が帰国の翌日にチームの練習に参加したというニュースが流れておりました。

彼女は後輩のために冷やしたペットボトルをバケツ一杯に詰め配っていました。

あれだけ世間の注目を浴び、全日本の主将までした選手が翌日には後輩のために汗をかいている。リーダーとはこうあるべきだと感じました。

表舞台だけでなく、裏にも素晴らしいドラマがあります。他人には気づかれないところで努力している人がいます。本当のメダルとは人の振る舞いの中にあるのではないのでしょうか？



シニアハウスコム 0120-5318-77

こんにちは。相談員の佐藤 公亮(さとう こうすけ)です。

今回は、シニアハウスコムを利用してご入居されたご家族から頂いた「お手紙」をご紹介します。



■相談者：長女 ■入居者：父（70代） ■場所：町田市の有料老人ホーム

シニアハウスコムさんへ

今回私たち家族は、母の余命宣告、入院、看病、死、葬儀、法要、納骨、父のかかりつけ医の変更、入院を短期間で経験しながら生活をしてきましたので、全くゆとりのない状況で施設探しをしなければなりません。ネット検索や公的相談では時間がかかり焦っておりましたところ、「シニアハウスコム」さんのお世話になることになりました。

着実に流れてゆく「心地良さ」と、サポートして頂ける「心強さ」に安心して、とても冷静になれました。土曜日でも対応して頂いた事や仕事の早さに感謝しております。担当して頂いた小川さんの誠実さとプロならではの着眼点に救われ、信頼する事ができました。

本当にありがとうございました。今後もよろしくお願い致します。

追伸

私が将来お世話になる時まで「シニアハウスコム」さんがあっていいです...

相談員の小川(おがわ)です。

お手紙をいただいたご相談者さまは、入院中であるお父様の退院後の介護施設を急いで探さなくてはならないという状況でした。

私の役目は、少しでも相談者さまの施設探しの手間と段取りの負担を減らす事なので、入居可能な施設の情報収集・見学同行・入居契約の段取りをお手伝いさせていただき、短期間で病院から施設入居までお手伝いする事ができました。

介護される方・介護するご家族の方、両者ともにいろんなご負担があるので、心理的負担を少しでも減らすお手伝い出来る事を心掛けております。

勉強会のご報告



7月28日(土)18:00からたんぽぽ介護勉強会を開催しました。

今回は「熱中症予防講座」を鷺宮高齢者福祉センター健康相談室の看護師森田洋子様が講義して下さいました。

暑さを感じなくても温度計や湿度計を目安にエアコンを適切に使用すること、時間を決めて水分と塩分も摂るとよいことなどを勉強しました。

利用者様だけでなくヘルパーさんの皆さんも健康に気をつけ、暑い夏を乗り切って行きましょう。

暑い中、ご参加ありがとうございました。(たんぽぽ介護所長 村岡志づ江)



利用者様の作品

前田ひさ子様は作風の通り、穏やかでやさしい方です。



前田様、ありがとうございました。

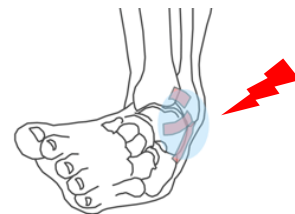
ずっと和裁のお仕事をされており、最近まで生徒さんが習いに通って来られていました。ちぎり絵は6年ほど前にヘルパーさんに勧められて、始めたそつです。最初はお手本を見て製作していましたが、ご自身で工夫されて様々な絵柄に挑戦されていらっしゃる。中野区からの表彰状と山梨からの感謝状は和裁のお仕事で貯められたお金を寄付されたものだとのこと。これが私の誇りです。と凛としておっしゃった様子に前田様のお人柄を感じさせていただきました。



ここから健康になりましょう♪

『捻挫』

今回は当院で最近多い症例である「捻挫」についてお話したいと思います。



ねんざというと、足首の関節をイメージされる方が多いと思いますが、手首にも起こりますし、腰や首、ほとんどの関節で起こり得ます。捻挫は字の通り「捻って挫く(ひねってくじく)」ことをいいます。捻り、挫くことで、関節を構成する靭帯や関節包、周りの皮下組織や筋肉を損傷することをいいます。損傷の度合によっては骨の損傷や靭帯の断裂を伴うこともあります。捻挫を放置したままですと運動障害や関節の軸変形につながる可能性がありますのでしっかりと治療が必要になります。

ぎっくり腰やむちうち、突き指も捻挫の一種です。痛みがあるときは自己判断せずに医療機関にかかることをお勧めします。捻挫を発症した際には、初期処置が大事になります。初期処置が迅速かつ的確に行なわれると、治療までのスピードに大きな違いが出ます。

応急処置で大事になるのが、RICE(ライス)です。

- R: Rest (安静)
- I: Ice (アイシング)
- C: Compression (圧迫)
- E: Elevation (挙上)

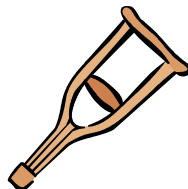


負傷した現場ですぐに処置するのが理想です。スポーツの現場であれば、冷却材などの道具があればアイシングと、サポーター等があればサポーターで仮固定してもいいでしょう。ホワイトテープによるテーピングも有効です。

当院では来院されたら、どこの靭帯・皮下組織・骨・筋が損傷しているかを細かく判別し、患部の冷却と、テーピング、包帯・副紙を用いて固定を行ないます。

程度によりますが、損傷がひどい場合だと着地・荷重をしないように松葉杖を貸し出ししております。

基本的には、固定・安静です！動けば治りが遅くなります。捻挫を起こしましたら、早めに受診してください。



ここから整骨院  
中野区大和町1-65-4 増田ビル1F  
<http://www.cocokara.clinic.net/>  
TEL&FAX 03-5364-9090 日・祝休

